

新人看護師の実践教育充実

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

県立中央病院は新人看護師の教育に、実際の医療現場を想定したシミュレーション研修を取り入れている。模擬的な環境での言動を振り返って反省したり、参加者と評価し合ったりして主体的に学ぶことで、実践力を身に付けることが目的。指導者のスキルアップにも力を入れ、安全に医療技術を提供するため看護教育の充実を図る。

同病院の看護師教育はベテラン看護師12人でつくる看護局教育委員会が担当。委員長は赤池ひさ子副看護部長によると、医療の高度化・複雑化によって教育内容が増えていることや、患者の人権意識の高まり、医療安全の観点などから学生が現場で受けられる実習内容には制限がある。新卒者自身も専門的な知識と技

赤池ひさ子
副看護部長

現場想定 知識と自信育む

《 145 》

術の不足を現場で実感している人が多いという。

そこで教育委員会のメンバーがシミュレーションディレクター養成研修を受け、本年度からシミュレーション研修を導入した。重大な医療事故につながりやすい輸液の管理や、複数の患者の要望が重なったときの対応、急変時の対応など、委員会が実際の看護現場を想定したシナリオを作成。委員や人形が患者役を務め、新人55人は2グループに分かれてシミュレーションを

体験。その後、自分の言葉掛けや行動を振り返り、参加者同士で話し合っただけで反省点や課題を浮き彫りにした。

赤池副看護部長は「みんなで課題を共有し、自分の足りない部分を自覚して実践に役立ててほしい」と話す。研修後の参加者のアンケートには「楽しい」「研修で学んだことを思い出して実践している」など前向きな意見が寄せられ、満足度は高いという。

「新人をいかに研修目標に導くかは指導者にかかっている」と赤池副看護部長。指導者側のトレーニングも積み、新卒者だけでなく、さまざま

な研修に取り入れていく考えだ。「看護教育を充実させることで、患者さんにより良い看護を提供するとともに、看護師には自信を持って働き続けてほしい」としている。

■第2、4木曜日に掲載します。



シミュレーション
研修の一場面
■甲府・県立中央病院